

巻頭言

“地域資源マネジメント研究”の創刊に寄せて

佐川 志朗¹⁾

Message for the first issue of the Journal

Shiro SAGAWA¹⁾

(2021年1月20日受付, 2021年1月21日受理, 2021年3月31日発行)

地域資源マネジメント研究科は、兵庫県立大学の一部局として、2014年にここ但馬の地にキャンパスを構えた。但馬地域は、兵庫県北部の日本海側に面し、大地の基盤としては、世界ジオパークにも認定されている山陰海岸ジオパークを有し、1971年に国内で一度絶滅したコウノトリが最後まで生息し、かつ2005年の野生復帰（再導入）が初めて行われた地である。すなわち、地球科学（ジオ）および生態学（エコ）のいずれの側面においても、教育・研究フィールドとしては魅力的な地となっている。また、これらの地域資源のワイズユースにより、地域創生が実行されており、直接的、あるいは間接的な人間との関わりを研究視座におく人文社会学（ソシオ）の研究サイトとしてもここ但馬の地は最適な地であるといえる。

2014年の開設以降、教職員および学生が地域にレジデントして、博士前期・後期課程の教育・研究を実施してきた。前述したように、本研究科の設立の際に基盤となった3領域は但

馬に存する固有の地域資源に立脚しており、目指すところは3領域の学際的融合による、大地と生物と人の関連性の科学的解明とそれを基とした賢明な保全および利用への示唆を提示することにある。

当研究科は但馬における高等教育機関として、地域貢献が大きな命題となっており、サイエンスカフェや地域資源マネジメント教室、公開講座等のイベントを通して、研究成果の社会還元、リカレント教育施設としての役割も果たしてきた。しかしながら、今年度はコロナに翻弄される1年であった。前期の授業はオンラインを余儀なくされ、イベントについても未だ対面実施は限定されている。そういうwithコロナ時代において、地域貢献の一つの策として考案したのが本紀要の発刊である。

読者の皆様におかれましては、多彩な研究成果をご覧いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いである。我々としてもアダプティブに地域資源マネジメント学、そして、本誌の成長を図っていく所存である。

1) 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 〒668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺128

1) Graduate School of Regional Resource Management, University of Hyogo, 128 Shounji, Toyooka, Hyogo Pref. 668-0814, Japan.